

県きこL研ニュース

岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会事務局（盛岡市立桜城小学校内）

〒020-0022 盛岡市大通 3-8-1

電話／FAX 019-624-0457 e-mail:jimukyoku@iwate-nangen.jp http://www.iwate.nangen.jp

第65回 岩手県きこえ・ことば・LD 等教育研究大会 開催報告

令和7年1月8日（水）に、いわて県民情報交流センター（アイーナ）で第65回岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究大会が行われました。来賓、個人会員や一般参加者を含め、231名の参加となりました。

開会行事では、本研究会にご尽力いただいた先生方4名の表彰が行われました。更に、午前は宮城学院女子大学教授の梅田真理氏を講師とした講演会、午後は全体会で3地区3研究班の発表があり、その後各分科会に分かれての協議が行われました。

本研究「自分の目標に向かって主体的に学ぶ子どもをめざして～自立を促す指導・支援の在り方～」は4年次研究の2年目となり、3学期からの指導・支援に活かすことのできる大会になりました。各分科会の様子は以下の通りです。



【発表主題】 自分の目標に向かって主体的に学ぶ子どもをめざして ～自立を促す指導・支援の在り方～

第1分科会	校長班	助言者	岩手県教育委員会事務局 学校教育室 特別支援教育課長 最上一郎 先生			
		発表者	一関市立花泉小学校 校長 門田徹 先生			

＜テーマ＞ 統合新設校における特別支援教育校内体制の構築をめざして

【助言】

＜校内体制について＞

特別支援学級は、障がい種により教育課程が異なる。共に学習する場合の目標等をしっかりと立て確認しながら学習を進めるように。

＜人材育成について＞

- ・特別支援学級の担当者は、専門性が必要となる。（研修の必要性）
- ・再任用、ベテランの職員が若手をつないでいくことが大切である。
- ・支援を必要としている児童は増加している。障がいの特性を理解し、一人一人の児童の実態を学校全体で共有し、個々の教員が児童を正しく見取る力を付けていくことが必要である。
- ・低学年の先生方は、子どもを枠にはめて指導してしまう傾向がある。子どもを変えるよりは、大人が変わっていくことも必要である。
- ・一人の先生が問題を抱え込まずに、地区等のネットワークを活用していくことも必要である。



第2分科会	難聴班	助言者	岩手県立盛岡聴覚支援学校	教諭	一條 遙 先生
		発表者	北上市立江釣子小学校	教諭	相原 香菜 先生

<テーマ> 主体的に学ぶ児童の育成 ～自立活動の実践を通して～

【助言等】

- ・まずは、実態把握。実態把握をすることで、児童生徒の困っていることが分かる。課題の抽出は複数の教員で検討することが望ましい。
- ・児童の「きこえ方」を捉え、きこえにくい音や発音しにくい音の指導を行う。発音指導は、書き言葉を定着させるために行う。
- ・きこえ方に困った時は、オーディオグラムや単語明瞭度検査を活用する。
- ・難聴児は、日本語を耳から習得することが難しい。文字、指文字とマッチングして弁別させる。文字や文章にすることでチェックする力をつける。
- ・難聴児が社会に出るためには、「読み書きの力」「対人関係能力」「仕事への意欲」「適切な障がい認識」等が求められる。
- ・ルールや常識の意味を理解したり、自分の取るべき行動や相手に与える印象を考えさせたりする指導が必要である。



第3分科会	LD班	助言者	岩手県立総合教育センター 研修指導主事			小野寺 真記子 先生
		発表者	一関市立東山小学校	教諭	小野寺 茂 先生	
			盛岡市立厨川中学校	教諭	庄 司 悦子 先生	

【小学校】<テーマ> 教科を取り入れた自立活動の工夫 ～計算・音読・文字～

【中学校】<テーマ> 漢字の読み書きが苦手な学習に取り組みにくい生徒への指導と支援

【助言等】

<小学校>

- ・筆算指導で色分けしたシートは分かりやすい。どこでつまづいているか、視覚的・空間的に学ぶことができる。
- ・音読指導では、マーカーで印をつける方法が児童の読みやすさの実感につながっている。



- ・指導の工夫により児童が学びの手応えを感じられ、さらに学級での意欲の向上につながる実践になっている。

- ・本人や家族を勇気づけ、意欲を引き出していくことや児童に合った学び方の自覚と工夫をすることで、自信につながっていく。



<中学校>

- ・KABC-IIの検査結果から生徒の強みと課題を的確にとらえ、日常生活の様子と検査結果を統合して、支援や合理的配慮に活かしている。担当者の優れた生徒との対話力、実態把握力、支援・立案力が実態に根差した支援となっている。



- ・読み書きの修得について。トライアングルモデルは、読み書きを修得する上での大事な3つの要素、音-形（文字）-意味の三角関係を示したもの。「りんごのり」みたいに何らかの意味づけがあって、意味やイメージがそれに結びつくことが重要である。この3つの関係の結びつきで文字の習得が成立する。どこかの結びつきが弱いと読み書きの困難が生じることがある。

- ・担当する児童のよいところを見つけ、それを伸ばす指導から始めて欲しい。特に読み書きの困難さを早く見つけて、早くサポートすることが重要。

第4分科会	花北地区	助言者	奥州市立水沢南小学校	教諭	村上春枝	先生
		発表者	花巻市立若葉小学校	教諭	照井伸子	先生

<テーマ> 自分の目標に向かって主体的に学ぶ子供をめざして ～自立を促す指導・支援の在り方～

【助言等】

- ・奥舌まで広がりにくかったり、舌先を尖らすことが難しかったりする児童への指導は、「ベーシックエクササイズ」（「舌のトレーニング」シモン社）を参考にするとよい。
- ・家庭と連携する。「できることの強化」「家庭でしかできないこと」「できたことに共感する」等の内容のものを課題として出す。



- ・指導上の留意点の書き方として「させる」から「～できるように～する」、検証できるように「創意、工夫、手立て」を記載するようにする。
- ・子どもの居場所や保護者へのフォローをしているところ、根拠に基づいて手立てをたくさん用意しているところ、子どものことばを大事にしているところがすばらしい実践である。

第5分科会	両磐地区	助言者	盛岡市立桜城小学校	教諭	平浩一	先生
		発表者	一関市立千厩小学校	教諭	八木純子	先生
			一関市立山目小学校	教諭	金野佳代子	先生

<テーマ> 特別な支援を必要としている子どもの実態に応じ、言語二次検査の見立てを生かした指導や支援はどうあればよいか。

【助言等】

- ・ことばの教室で言語以外の指導の必要性の声が上がってきた。言語障がい以外の研修をし、専門性を有することで異なる障がい種も指導が可能である。（H18. 3.31 の通知による）岩手の発音指導も大切にしながら、状況や地区に応じて対応していく。



- ・「たのしいすごろく」については、見立てと指導がリンクしているところや、複数項目を組み合わせて見立てているところがよい。たくさん出て来た実態をカテゴリー別にまとめるともっとよくなる。
- ・2次検査は、一つの視点であるので、それだけではなく事前情報とつなげること、すごろくを通過しても日常でつまづくこともあるので、実態と合わせることで、より効果的に見立てることができるのではないかと。

第6分科会	宮古地区	助言者	盛岡市立津志田小学校	教諭	熊谷亜紀子	先生
		発表者	山田町立山田小学校	教諭	妻田直子	先生

<テーマ> 構音障がいにおける自己批正力を育てる指導・支援。

【助言等】

- ・意欲や態度を育てるための ICT の活用、配慮した言葉がけがすばらしい。
- ・課題把握で、視覚に訴えるのはよい。ICT の活用は、分かりやすく取り組みやすい。いつでも見ることができる、記録としての活用ができる。他の児童への活用もよい。





- ・領域ごとの評価がすばらしい。評価基準の共有について考えていきたい。
- ・自分の様子を言語化することは難しいことであるが、大切である。見える化しているのがよい。児童に合った言語化は、イメージがもてる。
- ・パペットの活用は、児童に合わせてよい。
- ・自己弁別の方法が、聴覚、視覚、口腔内の感覚に多角的に働きかけているところがよい。

幼児班	実践交流
-----	------

研修：AグループからGグループに分かれてのグループワーク

- ・資料集について
- ・「グレーゾーンのお子さんがことばの教室に来たときの指導方法」について

【共有された内容】

- ・楽しい雰囲気作りや「また来たい」と思われるようなレポート作りが大切。
- ・幼児の実態や特性を知って指導を行う。



- ・好きなことや好きな遊びを指導に生かしたり、教材を工夫したりする。
- ・保護者のニーズや認識についての情報を共有していく。
- ・スモールステップで指導を行う。
- ・できたことや頑張ったことなど、よさを認めて褒める。



講演 演題 「多様な子どもの指導・支援 ～通級による指導等の活用～」

講師 宮城学院女子大学 教育学部 教育学科 教授 梅田真理氏

1 一人ひとりに合わせた支援

インクルーシブ教育は「共生社会」の実現を目指している。到達すべき目標は、一人ひとり違って当たり前。通常学級にも特別に支援の必要な児童が在籍している。特別支援教育は、通常学級でも必要である。

2 特別な支援を必要とする子どもたち

人との関わりやコミュニケーションなど、子どもの「困り」に気付くこと。支援を必要とする子ども達が暮らしやすくするためには、自分の得意、不得意を知って、取り組みやすい環境を作ることが必要。

3 通級による指導の活用

個々に応じた支援のため、より正確な実態把握を一度ではなく、繰り返し行うこと。診断名にこだわらず、状態をよく「見る」ことが重要である。担任の先生は、相談し協力することは大切だが、担当者にお任せにならないように。校内でのチームづくりを。管理職がバックアップを！

4 子どものよさを見つける

「得意なこと」は人それぞれ違う。いろんな「得意」があっていい。学級全体で取り組める環境の整備を。できたことを認め、ほめる。役割を与える。ほめる時はみんなの前で、注意は個人的に。

5 自立にむけて

子どもは集団で育つ。「居場所がある」「仲間がいる」という安心感や自分に自信をもつことで自立に向けて必要な力を蓄えていく。



梅田先生、ありがとうございました。

こんにちは、両磐地区研究会です！

今年度は、ことばの教室（一関南小）担当が1人増え、その担当が一関小学校へ巡回（訪問）指導を行うことになりました。そして、きこえの教室（千厩中）が新設されました。

地区研究会は、3つの分科会（きこえ・ことば・LD等）で行い、それぞれの研修をしています。今年度の研究内容について簡単に様子を紹介します。

◎ことばの教室(10施設) [担当が2人]

- | | |
|---------------|-----------|
| 一関市立山目小学校 [2] | 一関市立大東小学校 |
| 一関市立南小学校 [2] | 一関市立室根小学校 |
| 一関市立花泉小学校 | 一関市立東山小学校 |
| 一関市立千厩小学校 [2] | 一関市立藤沢小学校 |
| 一関市立大原小学校 | 平泉町立長島小学校 |

◎幼児ことばの教室(3教室)

- 山目小教室
- 南小教室
- 千厩小教室

一関市の就学時言語検査（一次・二次）の方法や見立て方について、担当者間で共通理解して行いました。教育委員会とも意見を交換して、保護者の事前記入用紙を工夫していただきました。その記入用紙を一次検査の参考資料として二次検査の担当校に渡すことができ、事後の確認作業の時間短縮ができました。早期支援につなげるための見立て方等については1月の研究大会の発表資料を参考にしてください。

◎きこえの教室(3学級)

- 一関市立舞川小学校
- 一関市立花泉小学校
- 一関市立千厩中学校

担当者の経験年数が短いので、お互いに情報交換会をしています。一関清明支援学校（聴覚）の公開講座に参加したり、各学校で助言をしていただいたりしながら研修を進めています。

県LD班の研修会に参加したり地区内の担当者同士で研修会をしたりしています。今年は1月の研究大会で東山小学校が発表したのもので、サポートしながら研修を行いました。実態把握から児童に合った指導を工夫することができました。詳しくは発表資料を参考にしてください。

◎LD 等通級指導教室(4教室)

- 一関市立山目小学校
- 一関市立南小学校
- 一関市立東山小学校
- 一関市立磐井中学校

※^{りょうばん}両磐地区とは？ … 「一関市と平泉町です」

岩手県南地域（^{にしいわいぐん}西磐井郡と^{ひがしいわいぐん}東磐井郡の両方）をまとめた言い方です。現在は広域合併により東磐井郡と西磐井郡花泉町が使われなくなり、「西磐井郡平泉町」だけが残っております。岩手県内の天気予報では「両磐地域」という呼び方が使われています。